

## 令和3年度エゴマ栽培実証調査項目について

エゴマ栽培研究会事務局

## 1. 中生種を用いた早播きの栽培技術の確立【摘心・台刈り時期の検討】

### [昨年度の調査結果について]

- ・4月下旬播種や5月下旬播種のように栽培期間が長期化する場合、収穫時のエゴマの草丈が高くなりすぎる傾向にあるが、台刈りを実施することで40～50cm程度、草丈を低くおさえることができた。
- ・台刈りの実施時期による収量への影響については、対照区と比較して、7月実施では収量に影響は見られなかったが、8月実施では収量に減少が見られた。

### [昨年度の研究会の検証及び意見・助言について]

- ・単年度の試験結果であることから、次年度において台刈りの適期を見極める試験を行う必要があること。また、台刈り作業の機械化実証も検討することの意見・助言があった。

### [今年度の実証調査について]

- ・昨年度の研究会の検証及び意見・助言を踏まえ、栽培期間の長期化(4月播種、5月播種)する作型での台刈り試験を行うこととする。
- ・なお昨年度の試験において、4月播種では徒長が見られたことから、本年度の試験については、株間は昨年株間+10cmに拡大し、条間は生産者の農業機械の幅に合わせた通常の条間に縮小して実施する。
- ・摘心(ピンチ)は昨年同様、本葉5節～6節の間で行う。
- ・台刈り時期は昨年状況から勘案し早める。

詳細は以下のとおり。

中生種 台刈り試験							
品種	調査内容	摘心	台刈り①	台刈り②	条間	株間	試験番号
福島県 田村種	台刈り時期調査 (播種：4月)	無	無	無	通常の 条間	昨年 +10cm	⑮ (摘心・台刈なし)
		6月	7月	無			⑯ (台刈り1回)
				8月			⑰ (台刈り2回)

## 2. 早生種を用いた栽培技術の確立（播種の遅播試験）

### 〔昨年度の調査結果について〕

- ・これまで5月播種を中心に行ってきたが、3品種ともある程度播種を遅らせても生育し、従来の播種期のものと比較しても収量に大きな差が見られなかった。
- ・播種時期により栽植密度を高めることにより 10a 当りの収量をカバーできると考察された。
- ・また、昨年度の試験では、播種時期による品種毎の草姿の比較を行った結果、早期播種では太陽光が株の低節位に当たらず収穫可能な花穂を着生できてなかったが、播種を遅らせたものでは草丈が低く草姿も小ぶりであったことから太陽光が株の低節位まで差し込み、想定していた以上に収穫可能な花穂が着生していた。
- ・そのため、播種を遅らせた場合の栽培については、収量が確保できる最低限の株間・条間の検証が必要と考察された。

### 〔昨年度の研究会の検証及び意見・助言について〕

- ・7月下旬以降播種の作型は、栽培期間の短縮による管理作業の省力化や他作物の定植作業に重ならない等、生産者にとって魅力的であることから、次年度においても調査を行うとともに、中山間地域においても同様の作型が可能であるかどうか実証調査を行う必要がある。

### 〔今年度の実証調査について〕

- ・生育期間が短くなること等から早生品種の「大沢野種」と「北海道種」を使用する。
- ・条間については、栽植密度を高めるため通常管理を行う条間の 1/2 とし、遅播きでの作業軽減が可能かどうか確認するため除草や中耕培土は行わない管理とする。
- ・株間については2つの株間の比較を行うものとし、栽植密度の違いによる生育状況や収量の比較等、早生品種による遅播栽培の可能性を見るものとする。

詳細は以下のとおり。

早生品種による遅播栽培試験					
品種	調査内容	播種時期	条間	株間	試験番号
大沢野種	早生遅播きによる生育・収量調査	6～7月	通常 の 1/2	昨年+10cm	⑦
				昨年-10cm	⑧
		7～8月		昨年+10cm	⑨
				昨年-10cm	⑩
北海道種		6～7月		昨年+10cm	⑪
				昨年-10cm	⑫
		7～8月		昨年+10cm	⑬
				昨年-10cm	⑭

### 3. $\alpha$ -リノレン酸含有率の関係

#### [昨年度の調査結果について]

- ・ $\alpha$ -リノレン酸含有率については品種間や播種時期によって差があった。

#### [昨年度の研究会の検証及び意見・助言について]

- ・エゴマの販売価値を高めるために、 $\alpha$ -リノレン酸含有率が55%以上となる栽培技術を確立できるよう実証調査を行うべきとの意見・助言があった。

#### [今年度の実証調査について]

- ・ $\alpha$ -リノレン酸含有率については、遅播きでの定植を考慮し早生の大沢野種を用いた調査（「播種の早晩」、「子実成熟の早晩」）を実施する。
- ・「播種の早晩」については、播種日の違いによる $\alpha$ -リノレン酸含有率の違いについて調査する。（播種は4月、5月、6月、7月に実施）
- ・「子実成熟の早晩」については、刈取日の違いによる $\alpha$ -リノレン酸含有率の違いについて成熟期の14～10日前の収穫（早刈り）、成熟期の7～3日前の収穫（適正刈り）、成熟期の0日の収穫（遅刈り）を調査する。（成熟期はエゴマの成熟ステージ早見表による識別）
- ・また、品種の違いによる $\alpha$ -リノレン酸含有率の違いについて調査する。

詳細は以下のとおり。

品種	調査内容	播種時期	条間	株間	試験番号
大沢野種	播種の早晩	4月	通常 の 条間	昨年 +10cm	①
		5月			②
		6月			③
		7月			④
子実成熟の 早晩	6～7月	⑤（早刈り）			
		③（適正刈り）			
		⑥（遅刈り）			
大沢野種	品種比較	6～7月	④		
北海道種			⑳		
福島県田村種			㉑		

### 4. その他

- ・定植前と定植後の土壌分析や栽植密度の違いによる収量調査の比較を実施予定。